

直方市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証経過
(令和5年度事業分)

1. 重要業績評価指標（KPI）に関する実績報告

令和6年4月3日から令和6年4月26日まで（別紙に全事業の実績報告添付）

2. 第1回検証委員会 令和6年5月20日（月）

（ヒアリング対象事業の選定）

委員の互選により以下赤枠の事業について、担当課ヒアリングを行い事業評価することを決定した。

※デジタル田園都市国家構想交付金事業については、検証が必須とされているため対象期間について毎年度実施している。

取組番号	内容	担当課	委員票数	備考
①-2	持続可能な農業の実現	農業振興課	5	
⑦-1	防災力の充実・強化	防災・地域安全課	3	1位2名、2位2名
⑥-3	「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりの推進	都市計画課	3	2位1名、3位2名
⑧-1	働く外国人の活躍支援	文化スポーツ推進課 商工観光課	2	1位1名、3位1名
⑩-4	地方創生SDGsの推進	企画経営課	2	1位1名、3位1名

デジ田交付金事業 ②-1（プログラミング教室） ⑥-2（直方北九州自転車道の活用）	企画経営課 商工観光課
--	----------------

3. 第2回検証委員会 令和6年8月27日（火）

（対象事業のヒアリング）

No	対象課	事業名	対象事業数
1	農業振興課 農業振興係	①-2 持続可能な農業の実現	1
2	防災・地域安全課 防災安全係	⑦-1 防災力の充実・強化	1
3	都市計画課 都市計画係	⑥-3 「コンパクト+ネットワーク」のまちづくり	1
4	商工観光課 商業観光係	⑥-2 直方北九州自転車道の活用（レンタサイクル、広域イベントの開催等）	1
5	企画経営課 企画経営係	②-1 未来のIT技術者育成事業	1

4. 総合戦略本部会議 令和6年9月17日（火）

（評価結果の報告）

No	対象課	事業名	総合評価結果
1	農業振興課 農業振興係	①-2 持続可能な農業の実現	C
2	防災・地域安全課 防災安全係	⑦-1 防災力の充実・強化	D
3	都市計画課 都市計画係	⑥-3 「コンパクト+ネットワーク」のまちづくり	B
4	商工観光課 商業観光係	⑥-2 直方北九州自転車道の活用（レンタサイクル、広域イベントの開催等）	D
5	企画経営課 企画経営係	②-1 未来のIT技術者育成事業	A

各委員からの評価結果を以下の基準に基づき A～D で評価を行った。

A 評価：委員評価全て B 以上、かつ A が 5 割以上の事業

B 評価：委員評価全て C 以上、かつ A・B が 6 割以上の事業

C 評価：委員評価全て C 以上の事業

D 評価：委員評価 D が 1 つ以上の事業

総合戦略ヒアリングシート(委員会ヒア用)

取組番号	①-2	担当課係名	農業振興課	農業振興係	事業実施年度	R5
取組名	持続可能な農業の実現					
取組内容	◆ 国・県の補助事業等を活用し、新規就農者に対する支援を行う。 ◆ 農業の担い手である認定農業者に対し、県やJA等の専門家と協力し、経営改善に向けた助言を行う。また、認定農業者連絡協議会の活動の充実、認定を受けるメリットについての周知等を行い、新たな認定農業者の確保・育成を図る。 ◆ 先端技術を活用したスマート農業の導入を進めることで、農作業の効率化・省力化を図る。 ◆ 省力化や経営の持続化に資する農業経営の法人化を進める農業者を支援する。					
事業実施年度	令和3年度 ～			単独or交付金等	単独	
実施方法	補助				その他交付金等	
予算額・執行額			R5年度(千円)	予算状況の説明		
	予算状況	(a)当初予算額	78,981	対象者は農家個人や協議会等様々であり、事業毎に補助率等の異なる。そのため、各事業における予算及び執行状況については、別添資料を参照。 【各事業における国県補助額（補助率）】 1.福岡県畜産振興総合対策事業費補助金 1,750,000円（10/10） 2.経営所得安定対策直接支払推進事業費補助金 448,000円（10/10） 3.農業次世代人材投資事業費補助金 7,500,000円（10/10） 4.環境保全型農業直接支払交付金 1,459,860円（3/4） 5.多面的機能支払交付金 3,755,587円（3/4） 6.中山間地域等直接支払交付事業費補助金 1,924,482円（2/3） 7.水田農業担い手機械導入支援事業費補助金 616,000円（2/3） 8.活力ある高収益型園芸産地育成事業費補助金 48,077,000円（1/2）		
		(b)予算現額	78,981			
		(c)増減額（b-a）	0			
		(d)繰越額	0			
		A（b+d）	78,981			
	B 執行済額		77,686			
	うち交付金充当額		65,532			
	次年度繰越額		0			
	執行率(B/A)		98.4%			
KPI	指標名		指標値		R5年度実績	
	市の農業産出額（農林業センサス）		令和7年度18億円 （※平成27年度17.1億円）		15.20	
取組の検証	主な取り組み		事業詳細		年度総括	
	・ 活力ある高収益型園芸産地育成事業 ・ 水田農業担い手機械導入支援事業 ・ 日本型直接支払推進交付金事業（中山間、多面、環境保全）		国・県の補助事業等を活用し、様々な角度から農業者の営農活動を支援した。詳細については、別添資料を参照。		・ 県や国の事業を活用し、農業用機械や園芸施設の導入、条件不利地等への営農活動を支援した。	
今後の方針						
・ 継続して既存事業を活用するとともに、急速に高齢化が進み、担い手不足となっている地域を中心に農業者と営農活動を続けていくための話し合いを設ける等の取組を行う。						
検証委員の評価						
総合評価	委員	C評価	産出額のKPI達成が厳しい。KPIを見直す必要があるのではないか。			
C	委員	C評価	市の主体的な売り込みや新規担い手の発掘を行っていただくスタンスが求められる様に思います。			
	委員	B評価	有用な事業だと思いました。効果の示し方をもう少し工夫が可能な気がしました。			
	委員	B評価	各種交付金・補助金が有効に活用され、大規模化・法人化による新たな雇用創出につながることを期待します。			
	委員	C評価	KPIの見直しが必要。 高収益化に向けての具体的な取組み、補助事業の効果の検証が必要。			
	委員	B評価	具体的な成果を確認していくためにも、個別具体的なK P I設定が必要と考える。 高齢化・担い手不足は否めず、法人化・省力化による安定した生産とともに、 特徴的な産品の後押しによる、より付加価値の高い事業の推進にも期待したい。			

A：着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B：概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
C：事業の改善が必要である。 D：抜本的な事業の改善が必要である。

総合戦略ヒアリングシート(委員会ヒア用)

取組番号	⑦-1	担当課係名	防災・地域安全課	防災・地域安全係	事業実施年度	R5
取組名	防災力の充実・強化					
取組内容	◆自主防災組織の設立・活動を支援し、地域防災力の向上を図る。 ◆豪雨災害や地震災害等、広範囲での被害が想定される災害対応について、広域連携による取り組みを推進する。 ◆ため池の耐震性調査を実施し、ハザードマップを作成する。					
事業実施年度	令和3年度 ～			単独or交付金等	単独	
実施方法	直営					
予算額・執行額			R5年度(千円)	予算状況の説明		
	予算状況	(a)当初予算額	0	事業にかかる費用は人件費のみのため、令和5年度は予算はとっていません。 ハザードマップは令和3年度に作成をし、全戸配布を行った。現在は転入者などに配布を行っており、予算はかかっていませんが、福岡県が中小河川の浸水区域の見直しを行っており、ため池ハザードマップも土木課が作成しているため、令和7年度に新しいハザードマップを作成し、全戸配布する予定。		
		(b)予算現額	0			
		(c)増減額 (b-a)	0			
		(d)繰越額	0			
		A (b+d)	0			
	B 執行済額		0			
	うち交付金充当額		0			
	次年度繰越額		0			
執行率(B/A)		0.0%				
KPI	指標名		指標値		R5年度実績	
	自主防災組織の組織率		令和7年度100% (令和元年度50.77%)		58.09	
取組の検証	主な取り組み		事業詳細		年度総括	
	・自主防災組織未結成地域への出前講座 ・自公連防災分科会での自主防災組織作成への働きかけ		・自主防災組織の目的や具体的な活動内容、避難訓練について説明する出前講座を、自主防災組織未作成地域で積極に行っている。 ・自公連防災分科会には、各校区代表が出席しているため、校区ごとに活動内容の報告をしてもらい、自主防未作成校区に対して、作成を働きかけている。		今年度は新入校区で自主防災組織が作成されたため、全11校区中6校区で作成された。未組織校区の5校区に対し、自主防災組織の重要性について説明を続けていく。	
今後の方針						
自主防災組織の中核となることが期待される自公連防犯分科会において、自主防災組織と防犯訓練の必要性について周知を図っている。						
検証委員の評価						
総合評価	委員	B評価	いつどこで発生するか分からない大規模災害に対して自主防災組織の役割は非常に大きい。今後も組織率向上に向けて促進してほしい。			
D	委員	B評価	広域連携を主体的に実現する事が求められる様に思います。その場合支援する側としての責務とその主体等の明確化が求められると考えます。			
	委員	B評価	働きかけの内容をもう少し明らかにしてKPIに入れてもいいと思いました。			
	委員	B評価	新たに1校区自主防災組織が作成されたことは、これまで取り組まれた成果だと思えます。災害に対する意識が高まっているなかで、更に取り組みを強化していただければと思います。			
	委員	B評価	近年の自然災害は想定を大きく超えることが増えているため、訓練・出前講座を引き続き続けてほしい。			
	委員	D評価	大規模災害が発生している昨今において、住民の安心安全のためにも早急に事業の抜本的見直しを行うことが必要と考える。			

A：着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B：概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
C：事業の改善が必要である。 D：抜本的な事業の改善が必要である。

総合戦略ヒアリングシート(委員会ヒア用)

取組番号	⑥-3	担当課係名	都市計画課	都市計画係	事業実施年度	R5
取組名	「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりの推進					
取組内容	◆ 中心拠点への都市機能の集積と居住の推進による拠点性の向上 ◆ 公共交通による各拠点間のネットワークの形成 ◆ 利便性向上を図る都市サービス空間の形成					
事業実施年度	令和4年度	～	令和5年度	単独or交付金等	その他交付金等	
実施方法	委託					
予算額・執行額			R5年度(千円)		予算状況の説明	
	予算状況	(a)当初予算額	8,809	立地適正化計画を令和4、5年の2ヶ年で集約都市形成支援事業補助金を活用し改定を行った。 事業費内訳) 都市再生協議会開催(2回)に要する費用 214千円 直方市立地適正化計画改定業務委託料 委託期間：R5年6月23日～R6年3月22日 8,487千円(補助金3,200千円)		
		(b)予算現額	8,809			
		(c)増減額(b-a)	0			
		(d)繰越額	0			
		A(b+d)	8,809			
	B 執行済額		8,701			
	うち交付金充当額		3,200			
	次年度繰越額		0			
執行率(B/A)		98.8%				
KPI	指標名		指標値		R5年度実績	
	居住誘導区域の人口密度		令和3年度：45.2人、令和4年度：44.9人、令和5年度：44.6人、令和6年度：44.4人、令和7年度：44.1人(計画の目標値…令和22年度：40.0人)		44.2	
取組の検証	主な取り組み		事業詳細		年度総括	
	歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを進めるために「立地適正化計画」を平成31年に策定した。策定から5年が経過したため計画を改定し、都市機能誘導及び居住誘導を促す施策の見直しを行った。また、令和2年に成立した「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律」により制度化された「防災指針」を追加した。		R5年4月：中心市街地で「ここっちゃ」運用開始。利用者数1万2千人(令和5年) R5年9月：上老良・我孫子線歩道整備工事着手 R5年：住宅取得補助金制度開始(R5実績8件) R6年3月：まちなか創業支援補助金制度の対象に中心市街地に限り既存事業の事業所開設を追加。(中心市街地1件、他2件) R6年：保健福祉センター建設着手(男女共同参画センター本館解体) R8年オープン予定		市全体の人口が減少するなか居住誘導区域内の人口密度はほぼ目標値を達成している。しかし直方駅東側では低未利用土地が多く発生しており生活利便性や活力の低下が懸念される。	
今後の方針						
都市機能誘導及び居住誘導を促す施策と防災・減災対策の取組を推進していく。また、低未利用土地の施策として低未利用土地権利設定等促進事業を検討する。						
検証委員の評価						
総合評価	委員	B評価	適切な居住誘導、あるいは区域の設定によって、コンパクトなまちづくりを推進していったほしい。			
B	委員	B評価	テーマが大きすぎる事もありますが、コンパクトが既に集積しているからという理由だけで決められるのではなく、その地域の魅力による部分も考慮に入れられると良いと思います。			
	委員	B評価	交通の整備を一緒に進めていく必要があると思いました。			
	委員	B評価	令和3年度以降、達成度は高い数値を維持されてはいますが、長期的にはどうなのか、これから先どのような新しい事業が打ち出されるのか、その点注視したいと感じました。			
	委員	B評価	概ねKPI通り進んでおり、今後の人口減少も含めて施策を見直す必要がある。			
	委員	C評価	誘導への目標値としては達成しているが、他地域でも同様な事業が考えられることから、居住者の満足度調査等によるフォローは必要と考える。			

A：着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B：概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
C：事業の改善が必要である。 D：抜本的な事業の改善が必要である。

総合戦略ヒアリングシート(委員会ヒア用)

取組番号	⑥-2	担当課係名	商工観光課	商業観光係	事業実施年度	R5
取組名	直方北九州自転車道の活用（レンタサイクル、広域イベントの開催等）					
取組内容	◆ 民間事業者等によるレンタサイクル（シェアサイクル）事業の導入を推進する。 ◆ 直方北九州自転車道沿線自治体と連携し、直方北九州自転車道を活用した自転車走行イベントを開催する。					
事業実施年度	令和3年度 ～			単独or交付金等	デジタル田園都市国家構想交付金	
実施方法	委託					
予算額・執行額			R5年度(千円)	予算状況の説明		
	予算状況	(a)当初予算額	2,970	歳出予算額 2,970千円 うち充当歳入 雑入 サイクリングイベント参加料 1,000千円 デジタル田園都市国家構想交付金 425千円		
		(b)予算現額	2,970			
		(c)増減額 (b-a)	0			
		(d)繰越額	0			
		A (b+d)	2,970			
		B 執行済額	2,970			
		うち交付金充当額	425			
		次年度繰越額	0			
		執行率(B/A)	100.0%			
KPI	指標名		指標値		R5年度実績	
	レンタサイクル（シェアサイクル）事業の導入件数		令和5年度までに2件		0	
	自転車走行イベントの開催回数		年1回		0	
取組の検証	主な取り組み		事業詳細		年度総括	
	成金饅頭をはじめ市内で購入可能なスイーツを楽しみながら親子や初心者がゆっくりとサイクリングできる自転車道活用施策、キッズレースや自転車安全教室、ステージイベント等の企画により集客を図り、自転車道・サイクリングの普及に努めた。		福岡県の自転車道整備に合わせ、令和3年度より年1回のサイクリングイベントをプロポーザル方式による事業委託で実施している。令和4年度より地方創生推進交付金（現・田園都市国家構想交付金）を活用。当初はサイクリスト向けのイベントを実施していたがニーズがなく、初心者や親子向けのイベントを中心に実施している。		事前予約が必要なイベント（スイーツサイクリング・キッズレース・交通安全教室）の申し込みはトータルで194件（令和4年度：163件）あったものの、イベントは雨天のため中止となった。	
今後の方針						
市主催のサイクリングイベントの他、サイクルカーゴ（自転車ごと乗れるバス）や平筑の黒銀を活用したサイクルツーリズム等を活用し、自転車道の認知度向上及び活用促進を図る。						
検証委員の評価						
総合評価	委員	C評価	レンタサイクル事業の導入についてはニーズの観点からも非常に難しいと思われる。自転車道の活用が目的であるなら、一過性のイベントではなく日常の利用シーンを想定した取り組みが求められる。			
D	委員	D評価	サイクリストが求めている自転車道とのことでそもそも難しいテーマが与えられている（設定されている）様に見えますが、自転車道ではあるものの一旦自転車から離れて見るのも必要なように思えます。			
	委員	C評価	自転車による通勤・通学を推奨するなど、観光とは異なる観点での道路の活用を検討してはどうでしょうか。			
	委員	C評価	イベント内容によっては楽しみにされている市民の方も多いと思われますので、回数・規模等も含め再検討いただければと思いました。			
	委員	C評価	レンタサイクル事業が難しいのであれば、取組名自体の変更も必要かと感じる。			
	委員	C評価	一過性のイベント事業では効果は薄く、健康維持の為の活用等、地域住民の平常利用の推進をさらに検討してはと考える。			

A：着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B：概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
C：事業の改善が必要である。 D：抜本的な事業の改善が必要である。

総合戦略ヒアリングシート(委員会ヒア用)

取組番号	②-1	担当課係名	企画経営課	企画経営係	事業実施年度	R5
取組名	未来のIT技術者育成事業					
取組内容	◆ 学校教育以外の場で、情報化技術に実践的に触れる機会を創出し、将来の進路や仕事選びの選択肢を増やすきっかけづくりを行う。 ◆ 地域の企業や大学等と連携し、中学生や高校生を対象としたプログラミング教室を開催する。					
事業実施年度	令和3年度 ～			単独or交付金等	デジタル田園都市国家構想交付金	
実施方法	直営					
予算額・執行額			R5年度(千円)	予算状況の説明		
	予算状況	(a)当初予算額	1,040	・2市2町広域で事業費を負担（人口割）直方市負担536千円 負担金額486千円（宮若：263千円、小竹73千円、鞍手150千円） 参加者負担金18千円 事業費内訳）アプリケーション開発費 講師の派遣に係る経費 事業周知用チラシ製作費等		
		(b)予算現額	1,040			
		(c)増減額（b-a）	0			
		(d)繰越額	0			
		A（b+d）	1,040			
	B 執行済額		1,040			
	うち交付金充当額		511			
	次年度繰越額		0			
執行率(B/A)		100.0%				
KPI	指標名		指標値		R5年度実績	
	プログラミング教室等への参加者数		20人/年		23	
取組の検証	主な取り組み		事業詳細		年度総括	
	近隣2市2町の広域連携事業として、中高生向けプログラミング教室を開催している。Pythonを用いて、ブロック崩しなど簡単なオリジナルゲームの作成や、AIによる画像認識技術を活用したロボットカーの自動運転を行うプログラミングなどを学習した。		●エントリーコース(初級) 参加費：無料 4チームに分かれ、1名ずつチーム専任講師を割り当てて実施。3日間を通して習得したスキルにより、チームごとにオリジナルゲームを制作。最終日には発表会を開催した。 ●アドバンスコース（中級）参加費：3千円 2チームに分かれて開催。人工知能(AI)を取り入れ、標識を認識したラジコンカーが自動運転するプログラミングを習得。難易度別のコースをはみ出ずに完走させることを目指した。		エントリーコース（初級）、アドバンスコース（中級）いずれも、参加者アンケートにおいて高い満足度を維持しており、ニーズを満たす質の高い内容を提供することができた。 一方アドバンスコース（中級）は参加者が定員10名を下回った。開催日程（年末）が学校行事や季節イベントと重なったこと等が影響したと考えられる。	
今後の方針						
エントリーコース・アドバンスコースという分け方を一新し、WebコースとAIコースの2つのコースを設定する。また両コースとも夏休み期間中に開催し、参加費を完全無料化する。 そのほか工場見学や、域内企業による講演なども盛り込むことで、身に付けたスキルを将来的に地域で活かす具体的なイメージの形成を後押しする。						
検証委員の評価						
総合評価	委員	A評価	今年度の取り組みは地元企業との連携もあり素晴らしいと思います。今後も積極的な展開を期待したいです。			
A	委員	A評価	とても良い事業だと思いますので、過去の動画等をYouTubeにアップするなどしてプロモーションすると良いのではと思います。			
	委員	A評価	・リモート参加もできるとよいように思いました。 ・他の年齢層にも開いてはどうでしょうか。 ・どの程度使えるようになるのかについても資料が欲しいです。			
	委員	A評価	より多くの中高生に参加の機会を与えていただけるよう、スケジュールや日程を検討いただければと思います。（工場見学や企業による講演などは中高生の職業理解に大変有効と考えますので、継続していただければと思います。）			
	委員	B評価	本取組が将来的にどう直方市に還元されるのかが重要になってくると感じる。			
	委員	A評価	事業の見直しにより、企業を含めた地域全体での人材育成の内容となったことに評価。 今後、より参加し易い内容への検討や、より多くの方々への周知の方法も見直しも行い、さらに本事業の取り組みに期待したい。			

A：着実に推進され引き続き大きな効果が期待できる。 B：概ね推進され、引き続き効果が期待できる。
C：事業の改善が必要である。 D：抜本的な事業の改善が必要である。